

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|--|--|
| 事業所番号 | 0491400016 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 矢本愛育会 | | |
| 事業所名 | 認知症高齢者グループホーム あさぎり | | |
| 所在地 | 宮城県東松島市赤井字川前四311-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年 1月 3日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年1月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切にして、利用者が地域の資源を活用し、喜びを持って暮らしていけるよう力を注いでいる。地域の老人会主催のお花見や菊見会、新年会等に参加して顔見知りになってきたことで、地域の方々から声を掛けられるようになり、ホーム全体で感謝している。
 ・ご家族との絆を大切にして、来訪しやすい雰囲気作りを心掛けている。また、家族会も7年目を迎え、ホームの窓拭きや清掃等の奉仕活動への参加、季節の行事等への参加も毎回あり、定着してきている。
 ・利用者のケアは「自立支援」を念頭に置き、利用者各々が持てる力を役割り活動に発揮してもらえるように取り組んでいる。また、利用者の権利擁護に努め、日々の生活の中で人権侵害が無いように職員意識を強く持っている。そして楽しい雰囲気作りを常に意識している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸道路に沿って延びる16号線を東へ進むと東松島市立赤井小学校があり、道路を挟んで向かい側に「グループホームあさぎり」がある。平成23年度は床上浸水や避難生活で調査は省略された。近くには赤井北保育所があり、園児が毎月来訪して芋掘りや節分の豆まきなど行事と一緒に楽しんでいる。地域で開催される「いきいきほっとサロン」(地域福祉介護予防事業)への参加支援も積極的に行なっている。職員の介護への当初意欲は「してあげたい」ことだったが、現在は「教えられる発見」が仕事の遣り甲斐になっているという。入居者本位の介護に心掛け「手本になるケアをしたい」との意欲を見せる職員もいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:あさぎり)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | スタッフで話し合い、事業所独自で作り上げた理念がある。随時ミーティング等で理念を確認し合っている。 | 開設後に皆で話し合い「喜びと笑顔のためにできること」を不変の理念として掲げた。個別の買物外出や傾聴から引き出す希望に沿った支援など、入居者の「主体的な生活」(基本理念)を支えるケアに努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会の一員として、地域のごみ集積所の当番を行ったり、高齢者のいきいきサロン、学校行事、等に参加し、日常的に地域との交流の場がある。 | ボランティア講師による生け花教室や保育園児の行事参加が毎月あり、楽しく交流している。地域の高齢者を招いて「芋煮会」を開催しレクリエーションで楽しむなど、地域の高齢者福祉の拠点としても期待が寄せられる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の高齢者を招待して交流会を開催し、地域交流を図るとともに認知症の方への関わりや生活の様子を知ってもらう機会としている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、事業所から生活の報告の他、地域の情報を得たり、互いに意見交換が行われている。 | 会議の状況報告に「アクシデント報告」を義務化している。メンバーから震災時の塩害で枯れた植栽の始末について助言をもらったり、地域と協調して付き合うための具体的提言等があり双方向的な会議となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議には必ず市の職員に参加してもらい、情報交換を行っている。また、市を中心とした地域密着型サービス連絡協議会があり、情報の共有や介護の学習会等が開催されている。 | サロンや介護に関する学習会、医学的に見る認知症講座など、有用な情報の提供があり、積極的に参加している。震災後立ち消えとなっている同業者協議会の再開について要望しているところである。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者が自由に入出入りできる環境であり、万が一利用者が外へ出ても近隣の方々と連絡が取れるように努めている。禁止対象となる行為については、研修報告等を通して、職員間で確認し合っている。 | 玄関ドアは自動開閉である。入居者には「自由でいて欲しい」「自分でやれることはやって欲しい」との思いでケアしているので、拘束となる行為はありえないとの職員の意見であった。車椅子の使い方など些細で何気ない日常を点検してみるのも良い。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部の研修会等への参加や会議等で関連法について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を活用している利用者があり、関係する方々と話し合う機会も設けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の契約の際には、利用者・ご家族に十分な説明を行い、納得の上での同意を得て契約締結に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の面会時や定期的に開催する家族参加行事等を通して、ご意見や要望を伺う機会を設けている。要望等はミーティングを行い、ホームの運営に積極的に反映するように心掛けている。 | 家族会は、総会において家族の年間行事（清掃など奉仕活動や行事参加）が決まる。ざっくばらんに世間話や入居者の昔話などができる関係にあり、カンファレンスの席上で話を聞いているが要望・意見は出ていない。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議や申し送り等で、職員から意見等を聞く機会を設け、改善が必要な場合は十分な話し合いを行える環境を作っている。 | 入居者の状態に合わせたシフトや食事時間の変更、個別に対応する就寝の提案など職員の意見が反映されている例は多い。ケアや観察による職員の気づきが、入居者本位の生活を支えている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が向上心を持って業務に取り組めるように助言を行ったり、職場環境を整備する事に努めている。また、年1回、人事考課を行い、職務実績の評価などを行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修は研修計画を作り、経験や能力に合わせた研修への参加に努め、各々のスキルアップに役立てている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市社協主催の研修会に参加したり、地域医療福祉連携交流会などに参加したりなど交流を図っている。また、県内の同業種によるネットワークを構築し勉強会などを行い、サービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 実態調査を実施し、本人との関係作りに努めながら、今必要としているサービスが何なのかを見極め、本人が安心して入居できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居の申し込み時や契約時にホームの様子や運営方針などを伝え、家族とホームの信頼関係を築くよう努め、遠慮なく不安や要望を話せるような雰囲気作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 申し込みの際には、本人の状況の聞き取りを行ない、必要に応じて他のサービスや事業所を紹介するように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一人ひとりの能力に応じて役割活動を考えながら暮らし頂くように努め、このホームで共に暮らす仲間という意識を利用者とスタッフが築けるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族にも協力を頂き通院の支援を行ってもらったり、本人が今抱えている悩みや今後の対応等を家族・スタッフが共に考えるような関係作りを心掛けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族との関係が継続されるように家族会を設置して活動を支援している。また、地域の馴染みの商店への買い物に行く方もおられる。 | 入居者の生活年数が長くなってきており、自宅へ帰っても「家(ホーム)に帰りたい」と言うなど、入居者にとって「あさぎり」が居心地の良い馴染みの場所となっている。職員との関係性を重視し異動にも配慮している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者個々の個性や性格を把握して、食堂の席の配置を考えたり、レクリエーションなどで利用者間の関係をスタッフが仲介するなどして利用者同士の関係を保てるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や施設替えになっても、スタッフが面会に行ったりしながら、励ましの声掛け等を行うように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人や家族から暮らしの希望を伺い、その希望に沿える様な支援を心掛けている。 | 役割活動はやる気、達成感、自信と思いやりの連帯感につながっている。「決め付けないケア」を大切に、本人の意向をよく聞くよう努めている。「親戚に線香を上げたい」という思いを汲み取って、支援したことがある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族への聞き取り調査等において本人を取り巻きさまざまな事柄を把握するよう努め、サービス提供に役立てるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の様子を生活記録に書き留め、スタッフで情報を共有し、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3ヶ月ごとにケアカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。また、家族や本人から出る意見を尊重し介護計画に繁栄出来るように取り組んでいる。 | 介護計画書の作成は入居者、家族、職員数名が参加して行なう。「散歩させて」の家族要望を反映させたり、本人希望の「歩行訓練」で歩行器から手摺りになり、トイレでの移乗負担軽減と機能維持になった例がある。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | サービス実施状況用紙に日々の実践や本人の生活の様子を記載し、スタッフ間で情報を共有し、実践の振り返りに役立っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の支援の希望に対して、柔軟に対応できる体制作りと実践に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の区長や民生委員に働きかけ老人クラブへの参加を支援したり、地域の方々と意見交換や交流する機会を設けている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診、通院は本人及び家族の希望に応じている。家族対応の場合は、医療機関に情報提供を支援するようにしている。また、本人の状況によっては職員が代行している。 | 24時間体制で相談できる専門医師(本法人理事長)が居る。法人の看護師とも連携が取れており血糖値管理などの協力がある。定期受診の結果は「通院記録」で共有し、家族へは電話や毎月の報告書で知らせる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | バックアップ施設の特養ホームの看護師に気軽に相談できる体制を確保している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にはホームでの生活の状況を詳細に伝えている。見舞い等も頻繁に行うように心掛け、入院による心理的なダメージを少なくするように支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 体調や精神面などで特記的な変化が見られた際は随時家族に連絡し、対応策などを話し合っている。また、終末期に向けた対応についても、医師との連携も含め家族と話し合いを持っている。そして事業所でできることの対応について説明し、理解を得ている。 | 「重度化した場合の対応に係る指針」で、重度化及び看取りに関するホームの考え方を示し、治療・延命・看取りについて家族と一緒に考えたいことを伝えている。終末期あり方の選択は、医師の助言を参考にしながら本人・家族の意思を最優先にしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時に備え、利用者の状況一覧表を作成し、初期対応での戸惑いを無くすように対応している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練に近所の方々の参加を促したり、運営推進会議を通して地域の自主防災組織との協力体制作りに取り組んでいる。 | 前回の目標達成計画に挙げた「防災頭巾、ヘルメット、備蓄の整備」は達成した。訓練時は地域住民の参加協力(誘導と見守り)があった。消防署の総括意見として、初期消火や避難状況に高い評価をもらった。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人の人格と尊厳を損ねないよう日頃からミーティング等で確認し合いながら対応している。 | 起床時間など個別のリズムを大切にしたり、食材や衣類の好みを尊重している。手を出し過ぎないケアでプライバシーやプライドに配慮している。本人がどうしたいのかを重視してケアに取り組むよう努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 様々な選択の場面には本人に直接聞いたり、さりげない会話や声掛けの中で自己選択・自己決定を促すような働きかけを行うように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ホームの基本的な流れはあるが、本人の希望やこだわりを尊重し、また、体調面や精神面を配慮した個別のリズムを守るような支援を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の意向を尊重しながら、自己選択を促す声掛けや対応をするように取り組んでいる。また、必要に応じてスタッフからも助言を行う。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 盛り付け、配膳、片付け等を一緒に行ったり、食事も同じテーブルで楽しい雰囲気作りで取り組んでいる。 | 食のイベントが多く、「そうめん流し」「すいか割り」などで皆が笑顔になっている。毎月の外食も楽しみのひとつである。乳飲料を宅配でとる入居者も居る。法人の栄養士が献立し、届いた食材を職員が調理している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | バックアップ施設の栄養士から献立を提供してもらい、栄養バランス等を考慮している。また、食事や水分の摂取量を記録して不足が生じるような場合は、適宜補食等を行うように支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 希望者には訪問歯科サービスの提供利用している。スタッフは口腔ケアの大切さを理解し、本人と一緒にその能力に応じたケアを支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄チェック表を活用して、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援を心掛けている。オムツでの排泄からトイレ誘導によりトイレで排泄できるようになった利用者もあり、快適に過ごせるように支援している。 | 夜間はオムツでも日中はリハビリパンツを使用している。入居時は頻繁にコールしていた入居者が、いつでも対応してくれる職員に安心し、尿意時のみのコールになったなど、一人ひとりに合わせたケアをしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘による不穏等、その影響を理解して、整腸作用のある乳製品の提供や食物繊維の豊富な食材を取り入れ、便秘予防に心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 夜間浴の実施や回数等を本人と相談しながら、個々の希望に合わせた入浴が出来るように努めている。 | 湯の温度や量などに入居者の好みがあり、「熱め」「少なめ」などに対応している。脱衣室と浴室の温度差や転倒防止に留意して安全を確保している。入浴は、普段よりよく話す入居者をより理解できる機会でもある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 外出等で疲労感がある際は休息を促したり、寝付けない方には添い寝をする等、安心して休めるように配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬状は個別にファイルして随時職員が確認できるようにしている。服薬はスタッフが管理し、本人に手渡したり口へ運んだりして誤薬防止に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の生活歴を把握し、能力を活かした役割りの提供等、楽しみを持って生活を送れるような支援を心掛けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望に添って、近所の馴染みの店へ出かけたり、本屋やスーパー等への外出を支援している。 | 年間行事の外出のほかに、馴染みの食堂へ行ったり、お菓子を買に行くなどしている。初詣は近くの八幡神社へ行った。浮かない表情の入居者をドライブへ誘ったり、敷地内散歩など日常的に出掛けている。車椅子でもリフト付きの車で気軽に掛けられる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一人ひとりの希望に応じて個人で管理したり、スタッフが管理している。外出の際は本人に支払いをしてもらう等、金銭を使うことの大切さを理解した上で支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の要望等を考慮して対応したり、外部から電話があった場合は取り次ぎ、やりとりの支援を行えるように努めている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 柵の設置や正月飾り、七夕飾り、クリスマス等々季節感のある空間作りに努めている。カレンダーや時計などの日常的に視界に入るものは見やすい高さに調節して飾っている。また、玄関や廊下、トイレ等にも絵画など設置し快適な雰囲気作りに努めている | 食堂の炬燵はテーブルタイプで、車椅子のまま利用できる。高い天窓からの明るい陽射しが気持ち良い。中央の談話室は多用途に使われている。外につながるスロープ(3箇所)は、避難を容易にしている。庭の畑は、津波の被害に負けず枝豆が豊作だった。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 談話室にソファを配置して、気のあった者同士が思いを語れる空間がある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の家具等は本人の馴染みの物を持ってもらう等、家族へ協力をお願いしている。 | 掃き出し窓で室内は明るい。掃除や洗濯物干し、衣類の管理を職員と一緒にする入居者も居て、「自分でやれることは自分でやる」を実践している。夜間は1時間毎の巡回と物音に注意することで安心を保っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | その人の状態に合わせた福祉機器の導入や廊下の手摺りの配置などに考慮し、安全に自立した生活が送れるように配慮している。 | | |